

徳島大学渭水会々報

第38号

発行/徳島大学渭水会
徳島大学総合科学部内



「助任の丘 完成予想図」

表紙のことば……2

助任の丘 構想

学部長に就任して……3

総合科学部長 石川 榮作

総合科学部では今(20)……4

総合科学の教育研究を新たな段階に

総合科学部教授・前将来構想委員長 中嶋 信

TOPICS……5

“ラーニング・コモンズ”をキーワードに
図書館が生まれ変わりました……5

特集 総合科学部・

大学院の新たな旅立ち……8

坂東文夫教室の思い出……14

松永 勉

中国へ渡った教育学部・総合科学部生
ー「あの留学から十余年離れて」ー……17

葭森 健介

スタートライン……18

「心」の専門家としてのスタートラインに立って

米花 佳恵

社会人になるということ 下村 遥香

一步を踏み出す勇気 坂梨 容子

飯豊山にヒメサユリを尋ねて……22

中島 護

平成21年度部会報告……24

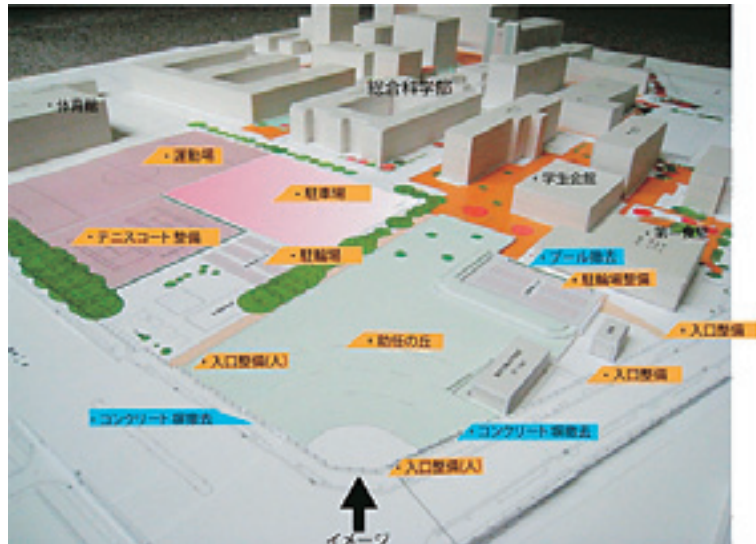
渭水会助成事業：高等学校部会講演会並びに総会 毛利 久康

近畿びざん会開催……25

徳大ニュース……36

総科ニュース……37

編集後記……42



表紙のことば

助任の丘 構想

国道11号新助任橋のたもとは、2～3m小高く、常三島キャンパスが美しく見渡せる。今ある塀をはずし、緑の丘をつくり、大学の顔としたい。助任の丘構想は2007年に発足した学生主体で常三島キャンパスのマスタープランづくりを進めるTOP（Tokudai Opensapce Project）プランナーズから提案されました。現在実現に向かって整備方策を検討しています。



総合科学部長
石川 榮作

学部長に就任して

渭水会会員の皆様には、常日頃から総合科学部をご支援いただきまして、まことにありがとうございます。

和田眞前学部長の後を受け継いで、本年4月より学部長を務めさせていただいています。特に本年4月からは学部とともに大学院の改組が行われ、念願の博士後期課程も設置されて、新しい体制で再スタートいたしました。その新しい教育研究組織の最初の学部長に就任し、責任の重大さを実感しているところです。ここで新しい学部・大学院を紹介して、学部長のご挨拶とさせていただきます。

総合科学部は昭和61年に教育学部を改組して、総合科学科の一学科として発足し、平成5年には総合科学科が人間社会学科と自然システム学科の二学科に再編されましたが、その後の社会の大きな変化に伴い「知の総合化」が求められる中、諸科学の総合・融合をさらに一層推進するため、本年（平成21年）4月より、従前の二学科を人間文化学科と総合理数学科に改組するとともに、新たに社会創生学科を設けて、三学科体制で再スタートした次第です。これにより総合的な視野と深い専門性を兼ね備え、21世紀の実社会において活躍する人材を養成することができるものと確信しています。

大学院に関しては、平成6年に人間・自然環境研究科（人間環境専攻と自然環境専攻）が創設され、また平成15年には独立専攻として臨床心理学専攻が新設されましたが、「地域創生総合科学」の具体化をさらに一層図るために、従前の人間・自然環境研究科を発展的に解消して、本年度より総合科学教育部（博士前期課程および博士後期課程）として再出発しました。博士前期課程には地域科学専攻（地域創生分野・環境共生分野・基盤科学分野）と臨床心理学専攻を置き、博士後期課程には地域科学専攻を設けています。この再編によって「総合科学」の教育研究をさらに高度に促進し、地域づくり・まちづくりの教育研究者・専門家を養成していき、地域社会の再生に貢献できれば願っています。

この新しい教育研究組織は、音楽に譬えて言えば、長年の苦悩に満ちた議論を通り抜けてようやく総合科学部交響曲第九番「歓喜の歌」の楽譜が出来上がったようなもので、もちろんこれからその楽譜（教育理念）を演奏（実行）していくことが大切です。学部長はその交響楽団（高等教育学団の意味での高教学団）の指揮者のような存在で、さまざまな楽器の音の一つにまとめるのがその役目だと認識しています。私にはあまりにも重い大役ですが、しかしその重責を引き受けた以上は、各パート（各種委員会）がしっかりと練習を重ねて、コンサートマスター（副学部長と評議員）と気持ちを一つにして、交響楽団全員の音を引き出して、学生（合唱団）とともに「文理融合」の美しいハーモニーを奏でたいと考えています。音楽と同じように、教育はすでに「ある」ものではなく、「創り出していく」ものです。社会も大学も現在はまさに **Change**（変革）の時代ですが、意識改革により **g** を **c** に変えるだけで **Chance**（チャンス）にもなります。教員一人一人の意識改革によって、常に学生とコミュニケーションを図りながら、理想の教育理念を実現するよう努力し、地域社会の再生と発展に貢献できる理想の総合科学部を実現したいと決意を新たにしています。今後とも渭水会会員の皆様方のご支援を心よりお願いいたします。理想はただ心に描くためのものではなく、実現するためのものです。このことを常に自分に言い聞かせながら、学部長の職務を全うしたいと思っています。

総合科学の教育研究を新たな段階に

総合科学部教授・前将来構想委員長 中 嶋 信



■改組のねらい

総合科学部と大学院は、この四月から新たな教育体制に改組されました。外見的には、文理融合型の社会創生学科の新設、博士後期課程を含む大学院・地域科学専攻の新設が目立ちますが、それにとどまらず、時代の要請に応えるための大きな変身を遂げつつあります。改組のコンセプトは挿絵に示しています。「総合科学はわかりにくい」、諸科学が一通り揃っているが、それで何が専門？という問いも寄せられていました。改組では、諸科学の協働関係をさらに高めて、学際的な性格を追究しています。つまり専門は、それぞれの科学を基盤とする「総合科学」です。そのために、学部では総合科学の意味が理解でき、5年間の博士課程を経て総合科学が実践できる、独自の教育課程を編成しました。

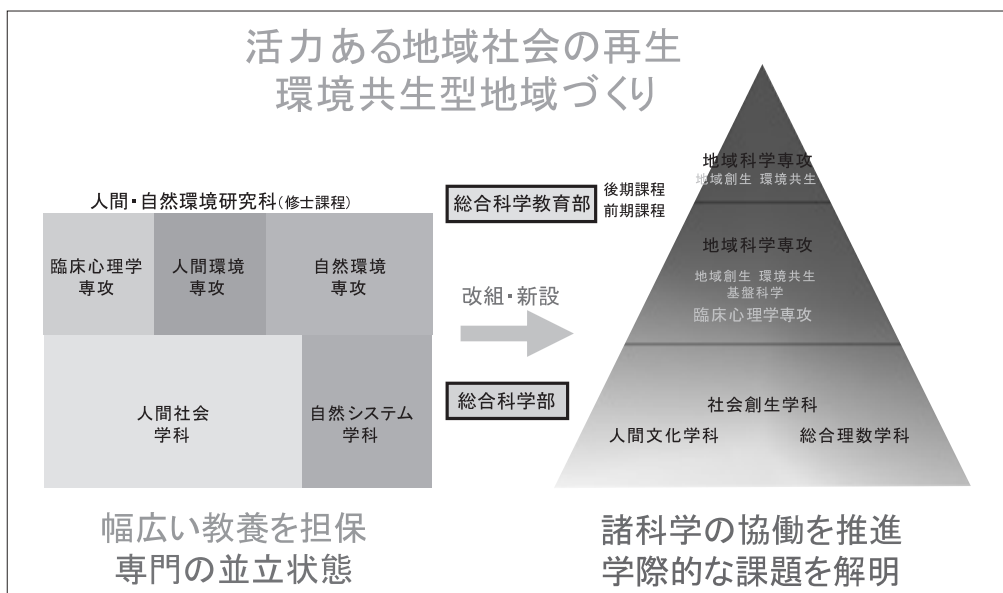
ひとつの学問分野を修めることも難しいのに、対象も方法も幅広い総合科学をどうマスターするかという心配もあります。そこで教育研究のテーマを「維持可能な地域づくり」に収斂させました。旧教育学部の教科別組織になじんだ方には違和感が伴うかもしれませんが、時代と地域社会の要請に的確に応えるように組織改革を進めているのです。

■進化する教育研究

教育効果をより高めることが改組の主な目的で

す。新しい教育課題に対応して、学部なら「地域創生論」「環境マネジメント」、大学院なら「地域科学」「環境政策特論」などの新科目を数多く開設しました。さらに、学部「基礎ゼミナール」や大学院「プロジェクト研究」など、少人数の演習型科目を増設し、いわゆる人間力の養成を重視しています。その上で、育成する人材像に応じた履修モデルを学部・大学院で提示して、充実した学習・研究過程をたどるよう誘導します。文部科学省などは「教育課程の実質化」という言葉を用いますが、卒業後の進路に対応する専門性を系統的に担保するよう、学生ごとに履修内容を指導するわけです。大学は豊富な科目群を提供し、学生はそこから自主的に学ぶ、という自由な学舎の色彩が弱まって見えます。これは、学生の質の変化や卒業後の進路を考慮した結果です。大学も社会の変化に対応して自身を進化させています。「古き良き時代」とは異なり、従来以上の教育責任を果たすために新たな模索が続いています。

以上、母校が総合科学の教育研究を新たな段階に押し上げつつあることを報告しました。目下、改組は旧課程と同時進行なので、教員・職員は繁忙を極めています。ただし、新たな教育研究の推進に対する意欲を高めています。卒業生の皆さんが、母校を訪問して、私どもを励ましてくださるようお願いします。





TOPICS

“ラーニング・コモンズ”をキーワードに 図書館が生まれ変わりました

1971年創建以来、親しまれてきた徳島大学附属図書館（際田弘志館長）が耐震化などの改修工事を終え、6月29日、リニューアルオープンしました。

耐震改修のほか、外観も一新！ 以前は2階にあった玄関を1階に移し、バリアフリーに配慮した構造に。書庫の配置・収納方法なども変更し、格段に使い勝手がよくなりました。ゆったりとした閲覧スペース、シンプル＆モダンなインテリアなど居心地のよさにも配慮し、「明るい雰囲気になった」「使いやすくなった」と利用者にも好評です。

1階にはカフェテリアやグループ研究室が新設されました。従来の図書館では飲食や会話はタブーでしたから、これは大きな変化です。学習の合間にコーヒーを飲んだり、おしゃべりしたり、ワイワイと討議しながら学習したりと、比較的自由的な使い方ができるようになりました。学生や教職員がコミュニケーションをはかったり、ディスカッションしながら、主体的に学習に取り組める快適な環境、いわゆる「ラーニング・コモンズ」が整備されました。

一転して、2階はサイレント・ゾーン。個人研究

室、個別ブースも備えた学習コーナー、専門学術図書が並ぶ閲覧室があります。

2階には図書館が所蔵する貴重資料を保管する資料室が新設されました。蜂須賀家ゆかりの史料や、古地図、郷土資料などがずらり。これらの資料は、3階の資料展示室で順次公開されてます。また、ブラウジングコーナー、視聴覚コーナー、マルチメディアコーナーなども充実。利用者の興味や目的に合わせて幅広い使い方ができるようになりました。

今回のリニューアルで学外の利用者もぐんと増えているそうです。一度足を運んでみませんか？

INFORMATION

〒770-8507 徳島市南常三島町2丁目1番地 ☎088-656-9696

開館時間／8時40分～22時（土日曜・祝日は10～17時）

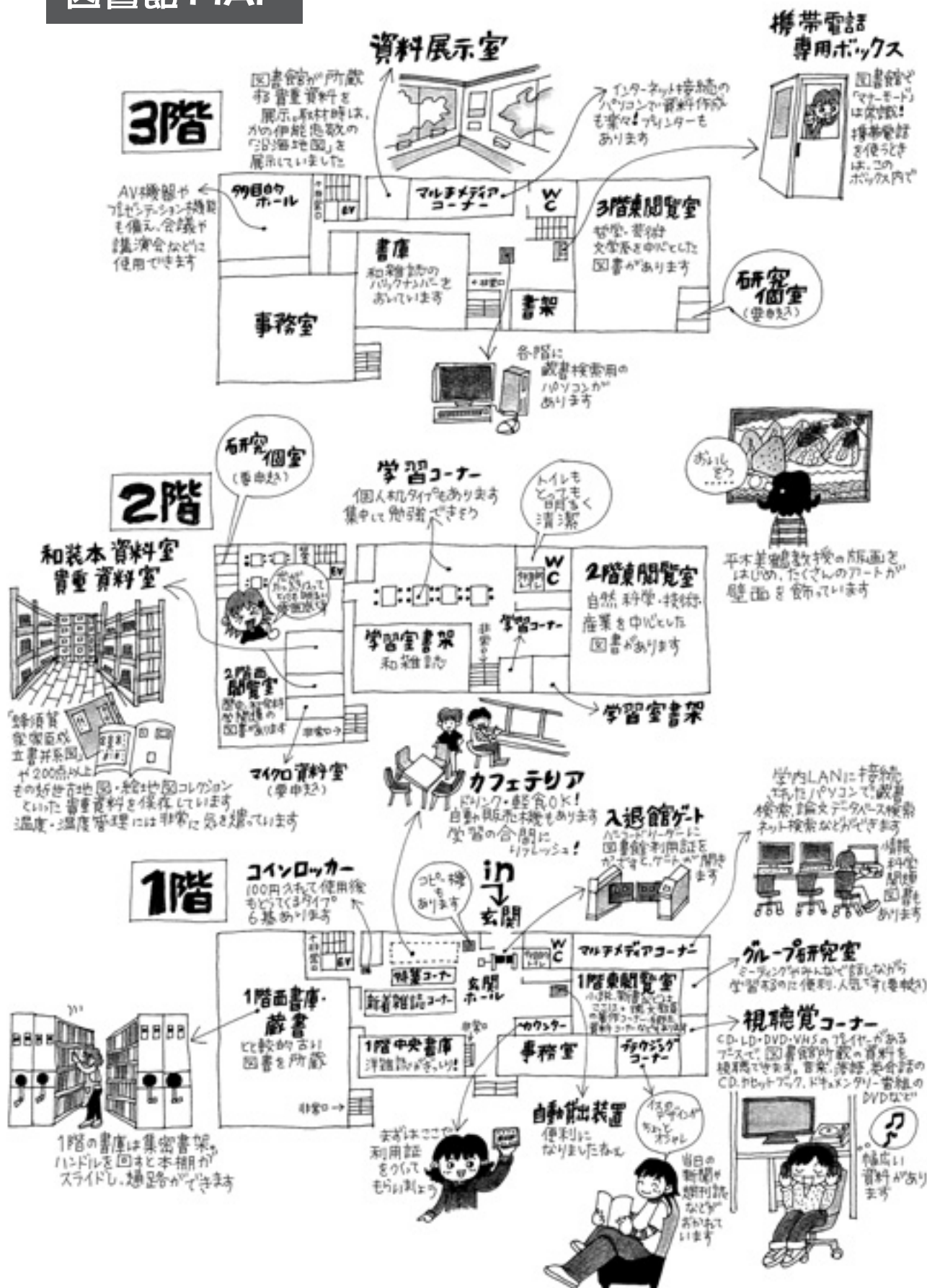
休業期は8時40分～17時

（土曜は10～17時、日曜・祝日は休館）

休館日／休業期間中の日曜・祝日、GW、8月の夏期一斉休業日、大学祭期間、12月28日～1月4日、蔵書整理日

<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/index.shtml>
m-sien@lib.tokushima-u.ac.jp

図書館 MAP



リニューアルした 徳島大学附属図書館へようこそ！

図書館というと、本と机が並んでいてみんなが静かに読書や自習をしている……というイメージがありませんか？

徳大図書館では情報を検索するためのパソコンコーナーや、グループ討議ができるグループ研究室、DVDなどの視聴覚資料を利用できる個人ブースなどを用意して利用者のみなさんのニーズにお応えできるよう努めています。

その他、今回のリニューアルで、勉強の合間にゆっくりくつろげる飲食可能なカフェテリアや、当館の貴重資料を展示している資料展示室なども新たにできました。徳大図書館はさまざまな使い方ができ



シトラスカラーのカフェテリア

ます。まず、足を運んでみてください。また、分からないことがあればお気軽に私たち職員にご相談ください。

ポータル機能も充実！ どんどんアクセスください

図書館には専門学術図書を中心に約60万冊を所蔵していますが、より広くより深く情報を提供できるよう、デジタル化やポータル機能の整備を進めています。学内LANからは、さまざまな分野のデータベースや、約8000タイトルもの電子ジャーナルなどにアクセスできます。

また、「蜂須賀家家臣成立書并系図」や阿波・淡路国絵地図、伊能図など、図書館が所蔵する貴重資料をデジタル化し、ホームページで公開しています。古地図・絵地図などはかなり精度が高く、拡大して細部まで見るができます。ぜひ研究に役立ててください。

卒業生や学外の方にも利用していただけるよう、ホームページの充実にも努めています。利用案内、催し物告知、図書検索……各種申請書もダウンロードできますよ。月1回フレッシュな情報をお届けするメールマガジン「すだち」も好評です。

【ホームページ】

<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/index.shtml>



職員：谷本 千尋さん



職員：田中 孝次さん

CHECK!
CHECK?

知ってたようで
知らなかった
図書館のアレコレ。
ぜひ訪ねて
確かめて
ください



コレクション 貴重資料・和装本の専用保管庫を新設。必見です



ギャラリー 壁面はさながらギャラリー。平木教授の版画や、若い人のポップな作品がいたるところに展示されています



集密書架 少ないスペースに膨大な本を収納できます。ハンドルを操作して書を動かす仕組みです

アート？ 机やイスのデザインにも注目ください



バリアフリー 玄関やトイレ、階段……すみずみにまで配慮が行き届いています

総合科学部・ 大学院の新たな旅立ち※

21世紀の疲弊した現代社会において、人類の前に立ちはだかる複雑な多くの課題を解決し、持続可能な共生社会を構築するためには、我々人類の自然観・社会観・人間観などを変革することが不可欠です。そのためには、細分化された伝統的な学問分野の壁を越えて、異分野と積極的に手を結び、諸科学の総合・融合を推進し、さらに、積極的に地域社会との連携を図り、まちづくり・地域づくりのための新しい学問領域を創生する地域科学（総合科学）の推進が必要です。そこで、徳島大学総合科学部および大学院は、新たな教育研究体制の整備を図ることとしました。即ち、平成21年4月に、従前の2学科の総合科学部を3学科にリニューアルし、さらに大学院人間・自然環境研究科（修士課程）を発展的に解消して、新しい大学院総合科学教育部「博士後期課程（博士課程）・博士前期課程（修士課程）」を設置しました。これにより、名実ともに地域科学（総合科学）を追究する学部と大学院が新たに船出しました。その概要は以下の通りです。

- 1) 総合科学教育部の設置と同時に、諸科学の総合・融合を学部段階から一層展開しやすくするために、従前の2学科（人間社会学科・自然システム学科）を、基盤型学問分野を包括的に展開する人間文化学科と総合理数学科に改組し、また地域科学（総合科学）を積極的に展開する社会創生学科を新設して3学科体制としました。これにより、総合的な視野と深い専門性を兼ね備え、実社会で活躍できる人材を養成します。
- 2) 地域科学（総合科学）のパイオニアを目指して、人間文化環境・社会環境・自然環境を包含する教育研究を高度に推進するために、博士後期課程には、地域科学専攻の1専攻を、博士前期課程には、地域科学専攻（地域創生分野・環境共生分野・基盤科学分野）と臨床心理学専攻（臨床心理学分野）の2専攻を設置しました。これにより、高度なまちづくり・地域づくりに積極的に貢献できる教育研究者・専門家を養成します。



総合科学部 3号館

※ 8ページから13ページはIAS NEWS vol.14 April 2009を修正して転載したものです。

学科・コース紹介

学科・コースで何を学ぶか？

人間文化学科

- 国際文化コース
- 心理・健康コース

国際文化コース

地球上の様々な地域に固有の、あるいは地域横断的な諸問題に関心を持ち、それらの問題に対する理解力、調査能力、さらに語学力、情報発信能力を持ち、諸問題に対して様々な立場から対処できる人材の養成を目標とする。

- ① とぎすまされた国際感覚を備え、日本語を言語学の視点から客観的に理解した上で、欧米の言語に強い関心を持ち、その言語を教育や実務の面で運用できる人材
- ② 日本の歴史や文化に関する知識を基盤に、欧米の歴史・文化・思想を深く理解し、多様な異文化を先入観なく受け入れ、文化交流に努めることができる人材
- ③ すぐれた国際感覚を持ち、中国をはじめとするアジア地域の文化に関する幅広い知識や言語能力を活かして、日本とアジアを繋ぐことのできる人材
- ④ 異文化理解、異文化接触に関する知識や言語学的素養を深め、国際的に日本語や日本文化の普及に努めることができる人材



「国際文化基礎演習」発表会の風景

○開講科目例

(学科共通科目)

日本語表現の基礎、文化研究の基礎、哲学・思想の基礎、近現代世界の成立と展開、心理学の基礎Ⅰ、心理学の基礎Ⅱ、ヘルスプロモーションの基礎、健康体力科学の基礎

(コース・コア科目)

比較文化研究、比較文化論、地域交流史、比較社会論、世界経済論Ⅰ、国際関係論Ⅰ、実用外国語演習(英語・中国語)、異文化間コミュニケーション

(コース・選択科目)

日本言語概説Ⅰ、日本文学研究Ⅰ、日本史基礎研究Ⅰ、日本史研究Ⅰ、東アジア文化論、考古学基礎研究Ⅰ、アジア史基礎研究Ⅰ、英米言語研究Ⅰ、現代英語研究Ⅰ、英米文化研究Ⅰ、英米文学研究、ヨーロッパ文学研究、ヨーロッパ文化研究、ヨーロッパ思想研究、ヨーロッパ史研究Ⅰ、アメリカ史研究、日本語教育方法論Ⅰ、芸術文化論、音楽学、現代音楽芸術論など

○取得可能な資格

中学校教諭一種(国語・英語)、高等学校教諭一種(国語・地理歴史・英語)、博物館学芸員、外国語技能検定

心理・健康コース

心と身体、それを取り巻く生活・文化・社会環境の諸問題、とりわけ健康増進に関する知識や技術を獲得し、それらの問題を、調査・実験を通じて解明する能力、評価・介入を通じて解決する能力を持つ人材の養成を目標とする。

- ① 人間の心の仕組みについて心理学的に理解し、心理現象一般および心と関連する健康について研究および評価・相談できる人材
- ② 人間の身体の仕組みと働きについて生理学や解剖学を中心に理解し、健康に関わる身体の諸問題について分析、評価することができる人材
- ③ 人間の健康行動を生活環境・文化環境・社会環境との関係性から捉え、地域における健康的な暮らしや「まちづくり」を企画・経営・評価できる人材



運動後の血液の循環応答の測定

○開講科目例

(学科共通科目)

心理学の基礎Ⅰ、心理学の基礎Ⅱ、ヘルスプロモーションの基礎、健康体力科学の基礎、日本語表現の

基礎、文化研究の基礎、哲学・思想の基礎、近現代世界の成立と展開

(コース・コア科目)

行動統計学、人間行動研究法、運動生理学、知覚心理学、社会心理学、コミュニティ心理学、健康教育学、スポーツ社会学、スポーツマネジメント論

(コース・選択科目)

生理心理学、精神医学、心理学実験実習Ⅰ、応用解剖生理学、衛生・公衆衛生学、コーチング論、運動文化論、スポーツ心理学、スポーツ栄養学、福祉情報論、人格心理学、認知心理学、健康心理学、学習心理学、人間形成論、スポーツ障害論、レジャーマーケティング論、地域健康福祉論、健康行動論、スポーツ科学実験実習、ウェルネス・プロジェクト実習など

○取得可能な資格

認定心理士、健康運動指導士受講資格、中学校教諭一種(保健体育)、高等学校教諭一種(保健体育)

環境政策論Ⅰ、憲法、行政法Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ、財政学Ⅰ、地域経済論、公共政策論、経済学の基礎Ⅱ、法律学の基礎Ⅱ

(コース・選択科目)

民法Ⅰ、刑法Ⅰ、刑法Ⅱ、商法Ⅰ、企業取引法、経済法Ⅰ、ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅱ、財政学Ⅱ、環境経済学、理論経済学Ⅰ、日本経済論、会計学Ⅰ、経営学Ⅰ、国際関係論Ⅰ、国際法、世界経済論Ⅰ、ヨーロッパ思想研究、地域政策論Ⅰ、市民活動論、地域社会論、社会統計学Ⅰ、情報社会と情報倫理、環境政策論Ⅱ、計画の論理、都市・交通計画、公共政策演習ⅠAなど

○取得可能な資格

中学校教諭一種(社会)、高等学校教諭一種(公民)



ゼミ宿：沖縄で戦没者が刻まれた「平和の礎」の前で説明を聞く学生

社会創生学科

- 公共政策コース
- 地域創生コース
- 環境共生コース

公共政策コース

社会科学のうち、法律学、政治学、経済学、および経営学の基礎能力を習得し、社会が抱える様々な問題に対して公共政策的解決策を提示することによって、「まちづくり・地域づくり」に貢献できる人材を養成する。

- ① 国、地方自治体において、まちづくり・地域づくりで活躍できる人材
- ② シンクタンク、NPO/NGO等で政策策定などで活躍できる人材
- ③ 企業、行政または社会が直面する様々な問題に対して複眼的な視野で分析・検討を行い、政策提言できる人材

○開講科目例

(学科共通科目)

社会創生学の基礎、経済学の基礎Ⅰ、法律学の基礎Ⅰ、社会学の基礎Ⅰ、社会学の基礎Ⅱ、地理学の基礎Ⅰ、アート創生プロジェクト、文系数学の基礎、生命科学の基礎、化学の基礎、生命科学基礎実験
(コア・コア科目)

地域創生コース

グローバル化が進行するなか、産業空洞化や経済的不均衡の拡大、少子高齢化やコミュニティの変質、IT社会の問題など、現代の地域社会は多くの問題に直面している。これらの問題の改善や解決に向け、的確な判断と柔軟な発想に基づき、情報を含めた文理融合型「まちづくり・地域づくり」政策を、積極的に推進できる人材を養成する。

- ① 統計データの活用と分析、GIS(地理情報システム)を用いた空間解析など、高度な社会情報処理能力を有する人材
- ② 地域社会の現場におけるフィールドワークを重視し、調査の企画・設計から、インタビューやアンケートの実施、報告書の作成、プレゼンテーションに至るトータルなプロセスをこなせる人材
- ③ 情報処理のための数学的・言語学的アプローチを身につけ、地域づくりに活用できる人材
- ④ コンテンツクリエイターとして論理的な思考能力とともに、芸術的表現能力を有する人材

○開講科目例

(学科共通科目)

社会創生学の基礎、社会学の基礎Ⅰ、社会学の基礎Ⅱ、地理学の基礎Ⅰ、アート創生プロジェクト、経済学の基礎Ⅰ、法律学の基礎Ⅰ、文系数学の基礎、生命科学の基礎、化学の基礎、生命科学基礎実験

(コース・コア科目)

地理学の基礎Ⅱ、情報創生プロジェクト、社会統計学Ⅰ、地域文化論Ⅰ、地域政策論Ⅰ、社会変動論、福祉情報論、WebデザインⅠ、情報社会と情報倫理、環境アート、日本語研究Ⅰ

(コース・選択科目)

地域構造論、空間情報論Ⅰ、地域変容論、地域環境論、地域文化論Ⅱ、地域政策論Ⅱ、地域経済論、地域社会論、比較社会論、社会統計学Ⅱ、地域調査法ⅠA、社会心理学、コミュニティ心理学、比較文化研究、異文化間コミュニケーション、情報創生演習、芸術創生基礎演習、WebデザインⅡ、情報総合プログラミングⅠ、言語情報処理研究Ⅰ、映像情報プログラミングⅠ、芸術研究演習ⅠA、メディア情報論、映像デザイン、アート表現基礎、美術概論など

○取得可能な資格

中学校教諭一種(社会・美術)、高等学校教諭一種(美術・情報・地歴)、情報処理各種資格、博物館学芸員、社会調査士、GIS学術士など



ユニバーサル徳島マップをテレビで紹介

環境共生コース

地域環境の諸現象や諸課題は、非常に多様な問題が絡みあっており、それらを理解し解決するためには、一分野における深い専門的な知識や技術のみならず、それと共に幅広い知識とそれらの応用力・調整力が不可欠である。環境問題を理系と文系の両面から理解して、解決に寄与することを目指す教育・研究に努め、環境に関する豊かな知識、高い技術、正確な分析力、正しい倫理観を持った専門職業人を

養成し、社会において環境保全活動や環境教育活動に参画し、自然環境と共生した持続的可能な社会の創生に寄与できる人材を養成する。

- ① 人間環境、社会環境、自然環境に幅広く興味を持ち、常に身の回りや地球規模での様々な問題に対して関心を寄せ、分析的に考えることのできる能力を有する人材
- ② 倫理学、社会学、政治・経済学、自然科学などに関する正しい基礎的知識を有し、環境問題に対してそれらを応用して解決に結びつける能力を有する人材
- ③ 幅広い自然科学の基礎知識を有し、専門性として環境化学、生命科学、生物資源に関する知識と技術力・応用力を身につけ、種々の環境問題の解決や環境保全活動や地域の生物資源開発・利用を担う能力を有する人材

○開講科目例

(学科共通科目)

社会創生学の基礎、生命科学の基礎、化学の基礎、生命科学基礎実験、社会学の基礎Ⅰ、社会学の基礎Ⅱ、地理学の基礎Ⅰ、アート創生プロジェクト、経済学の基礎Ⅰ、法律学の基礎Ⅰ、文系数学の基礎

(コース・コア科目)

生態学Ⅰ、生物資源論、自然保護論、環境リスク論、環境マネジメント、環境政策論Ⅰ、環境倫理学、環境経済学、環境物質循環論

(コース・選択科目)

生化学、分子生物学、発生学、適応進化学、細胞情報学、環境共生学実験Ⅰ、生命環境情報学、系統分類学、細胞生理学、機能物質作用学、生体物質影響学、環境生理学、物質作用・影響評価、活性物質生理学、生態学Ⅱ、分析化学Ⅰ、環境機器分析化学、グリーンケミストリー、天然物化学、生物有機化学、環境共生学セミナーⅠ、環境共生学総合演習Ⅰ、環境政策論Ⅱなど



分子生物学のツール「アフリカツメガエル」の飼育

○取得可能な資格

中学校教諭一種（理科）、高等学校教諭一種（理科）、博物館学芸員

総合理数学科

■ 数理科学コース

■ 物質総合コース

数理科学コース

現代社会はコンピュータ技術や情報ネットワークの飛躍的な進歩により高度に情報化され、個々の専門分野の知識だけでは解決することが困難な大規模で複雑に入り組んだ問題がいたるところに存在する。このような問題を解決するために、一見異なる様々な問題に共通する数理的な構造を見出し、有効な数理的手法を応用・開発する能力をもった人材を養成する。

- ① 数学の専門的知識、物事の本質を見出し問題解決に必要な数理的手法を自ら作り出す能力、論理的思考に基づく解析能力を有する人材
- ② 問題解決のために、コンピュータなどを用いて実践的に地域づくりなどで活躍できる人材

○開講科目例

（学科共通科目）

数理科学の基礎Ⅰ、数理科学の基礎Ⅱ、物理学の基礎、化学の基礎、生命科学の基礎、地球科学の基礎、プログラミング演習Ⅰ、物理学基礎実験、化学基礎実験、生命科学基礎実験、地球科学基礎実験（コース・コア科目）

数理科学の基礎Ⅲ、数学基礎、微分積分・演習Ⅰ、微分積分・演習Ⅱ、線形代数・演習Ⅰ、線形代数・演習Ⅱ、計算機概論、情報数学、データベース基礎論（コース・選択科目）

代数基礎Ⅰ、複素解析Ⅰ、微分方程式Ⅰ、確率・統計Ⅰ、代数学Ⅰ、幾何学Ⅰ、解析学Ⅰ、微分方程式Ⅱ、応用数理Ⅰ、情報システム特論Ⅰ、モデリング理論、プログラミング演習Ⅱ、制御概論、数値計算法、最適化論、コンピュータグラフィックス基礎論、情報総合プログラミングⅠ、数理科学演習、情報科学演習など

○取得可能な資格

中学校教諭一種（数学）、高等学校教諭一種（数学・情報）



情報処理実習

物質総合コース

物理学・化学・地球科学など多岐にわたる自然科学の成果を正しく継承し、その発展を図る教育の重要性は言うまでもない。ただし、これらの専門分野は個別的なものではなく、互いに密接な関連を持っている。従って、特定の分野に偏ることなく、幅広く自然科学の基礎を身につけ、自然科学に関係する様々な場で活躍できる幅広い基礎的素養を身に付けた人材を養成する。

- ① 物質科学を深く理解し、真理への探求心に満ち溢れた人材
- ② さまざまな科学技術分野における種々の問題に対して柔軟に対応できる人材
- ③ 広い視野を有し、基礎的な理系諸分野はもちろん、応用的な分野にも進出可能な人材

○開講科目例

（学科共通科目）

物理学の基礎、化学の基礎、生命科学の基礎、地球科学の基礎、プログラミング演習Ⅰ、物理学基礎実験、化学基礎実験、生命科学基礎実験、地球科学基礎実験、数理科学の基礎Ⅰ、数理科学の基礎Ⅱ



環境放射能の測定

(コース・コア科目)

力学Ⅰ、電磁気学Ⅰ、熱統計力学Ⅰ、量子力学Ⅰ、無機化学Ⅰ、物理化学Ⅰ、有機化学Ⅰ、分析化学Ⅰ、地球物質科学、地球環境科学、地球表層構造形成論、地球表層環境論

(コース・選択科目)

物理学実験Ⅰ、化学実験Ⅰ、地球科学実験Ⅰ、力学Ⅱ、電磁気学Ⅱ、熱統計力学Ⅱ、量子力学Ⅱ、物性科学、放射線科学、量子物質科学、宇宙科学、無

機化学Ⅱ、物理化学Ⅱ、有機化学Ⅱ、生化学、環境機器分析化学、天然物化学、分子化学反応論、生物有機化学、化学実験Ⅱ、生体物質影響学、環境地質学、物質構造解析学、地球科学実験Ⅱ、物質総合セミナーなど

○取得可能な資格

中学校教諭一種（理科）、高等学校教諭一種（理科）、学芸員

新設の大学院教育部・専攻**大学院総合科学教育部****博士前期課程(修士) 地域科学専攻**

地域科学専攻では、21世紀の社会に求められている持続可能な共生社会を構築するため、幅広い知識と深い専門性を兼ね備え、「環境（人間・社会・自然）と共生した地域づくり」の実現・発展に向けて力を発揮できる人材を養成します。この教育目標を達成するため、地域創生分野、環境共生分野及び基盤科学分野の3分野を置き、それぞれ各分野が目指す人材像は以下のとおりです。

① 地域創生分野

主に人文・社会科学分野の基礎の上に、文化政策・地域政策などの専門知識・技能を持ち、地域が抱える諸問題を理解し、持続可能な社会の実現・発展に向けて地域の活性化に貢献できる自治体の行政職員、シンクタンク職員、NPO・NGO職員など総合的に力を発揮できる人材

② 環境共生分野

主に自然・社会科学分野の基礎の上に、環境保全・環境政策などの専門知識・技能を持ち、主に環境科学の立場から地域が抱える諸問題を理解し、持続可能な社会の実現・発展に向けて地域の活性化に貢献できる自治体の環境分野の専門職員、企業の環境分野の専門職員、環境カウンセラーなど、総合的に力を発揮できる人材

③ 基盤科学分野

現代社会の諸問題を解決するためには基礎的学問

分野の融合・総合が不可欠であることを深く理解し、その知識に基づき、現代社会の様々な問題に柔軟に取り組み、持続可能な社会の実現・発展に向けて地域の活性化に貢献できるマスメディア関係者、NPO・NGO職員、自治体や企業の基礎的研究員など、社会の変化に柔軟に対応できる力を発揮できる人材

博士前期課程(修士) 臨床心理学専攻

臨床心理学専攻は、平成15年度に人間・自然環境研究科の独立専攻として新たに設置されましたが、人間環境の急激な変化の影響により心の問題の解決の必要性はこれまで以上に増大し、近年では地域に関連した事例等も増えてきました。そこで本専攻は、新たに設置される総合科学教育部の中で、まさに地域科学と密接な関係にある心理学分野として、地域科学専攻と並列に設置し、互いに連携を図りながら、心の問題の解決が図れる人材を引き続き養成します。

取得可能資格：臨床心理士資格の受験資格

博士後期課程(博士) 地域科学専攻

- ① 地域科学に基づく「地域づくり」という新たな領域において、総合政策、環境マネジメント、地域健康福祉などで、創造的かつ高度な教育研究を推進する教育研究者を養成します。
- ② 地域社会において、地域総合計画や環境アセスメントの立案などで、高度な独自の戦略・計画策定にあたる実務的な専門家を養成します。

<詳しくは徳島大学のホームページをご覧ください。>

(1) 設置のお知らせ：<http://www.tokushima-u.ac.jp/article/0013517.html>

(2) 2009年4月以降の徳島大学のホームページに順次、総合科学教育部の詳しい紹介が行われる予定です。

坂東文夫教室の思い出

松 永 勉



初めて見た時、その風貌はまさに職人の姿そのものであった。小柄な体格をしているがそこから発する威光には圧倒された。42年前のその印象は今でも鮮明に記憶に残っている。以来90歳で亡くなるまでの長い間、私にとって彫刻だけでなく人生すべてにご指導していただいたのが恩師坂東文夫先生である。

もともと絵を描いたり工作をすることが好きであった。自分の好きなことができればそれが可能のところ、さらにそこで学んだことが将来の仕事につながれば良い。この単純な考えが私の美術科を選んだ理由であった。それで徳大へ入学したのだが美術科の同期は岡田直利君と2人であった。

その頃常三島の学舎はまだ古い木造中廊下2階建を約半分使っている状態であった。専門の授業は確か一年生では週一回だけ専門基礎というのがあったように思う。そこで初めて坂東先生にデッサンを指導していただいた。毎週その古い木造の2階にあるデッサン教室で岡田君とデッサンに取り組んだ。普段先生は制作中は全く意見を言われず、後で見に来て作品の下にメモで何か書いて置いている。技術的な内容を期待して読むのだがそこには、たいてい「見るに忍びない。」との一言であった。

それまで私は作品を作れば上手と言われ誉められ少しは自信を持っていた。それがこのように言われたことは自分にとって強いショックであった。先生に全く無表情でダメと言われてもどこをどう直せば

良いのか分からず途方にくれ、ただ怖ろしく、必死になってデッサンに励むのみである。えらい所へ来てしまったと思った。

ところで、当時美術科に所属する新入学生が洗礼を受けるのがモデルの仕事である。先ず、先輩からモデルをしてくれないかと声がかかる。私がモデルを頼まれたのが卒業制作のための等身塑像のモデルだ。毎年新入学生はモデルをしながら制作のノウハウを学ぶのだと教えられ仕方なく納得する訳である。それで毎週坂東先生のいる彫刻教室へ通うことになった。

そこで初めて彫刻をする様子を見た。モデルを中心に輪になって制作をしている。彫刻は一見すれば粘土をつけるだけの単純作業のように思っていたのだが、ただそのまま人体を写すのではなく各作者が自分の考える人間像を探求することである。それは何か精神性のあるものを苦労して表現しているのだと知った。自分は今まで単なる器用さで作品が作れると思っていた。しかし創作を追求することがいかに厳しいものであるのかをその場からあらためて認識することになった。

そして、その彫刻教室で緊張感を漂わせていたのが先生の存在であった。先生は学生と同じ部屋で制作をしていた。いつも黙々と粘土と格闘している。その姿は近寄り難く、その職人的な風貌は私のような凡人には恐怖感を覚えるだけであった。ともかく相手は必死に粘土をつけているものだから、私は

ポーズを決めたら動くわけにはいかない。誰も一言も話さず制作している。ここでの印象は創作とはなま易しいものでないことを実感した。

学年も進むと、美術は実技の授業が増えてくる。絵画、デザイン、彫刻を一通り学ぶことになる。どの分野も本格的に取り組めば制作に時間がかかる。夜遅くなったり、休日でも制作するのが常であった。それでも特に立体を扱う彫刻の分野は今までに余り経験がなく手こずる作業が多かった。立体の意味や性格を知ることその材料や用具の扱い方などどれも未経験の領域である。制作の途中でどうにもならなくて



1975年頃。坂東文夫先生の「鳥」制作を手伝っているところ（3人の真ん中が私）。右端はそれを見守る先生。

困り果てているところに先生のアドバイスがされる。しかしその説明の言葉の意味が学生になかなか通じない。つまり、それは感覚的で抽象的な説明の仕方がされるためだ。ある程度の経験と力量がなければ初心者には容易に理解できるはずがない。先生に「もっとよく見てみい。」と言われてもボカンと見るだけだった。最後に「答えは自分で捜せ。」と言われて終る。私は何も解らずいつも「ハイ。」と返事をするしかなかった。

その理解できない彫刻の持つ謎的部分が私を彫刻に夢中にさせた。そしてもう一つ彫刻教室にはいつも心強い仲間がいたことも嬉しかった。それは制作活動を活発にしていた卒業生達である。夕方になると彫刻教室に現れる。というのは1962年に先生を中心として結成した彫刻集団の存在があって、そのメンバーの人らが先生の教室を拠点にして活動していた。彼らの制作活動は美術の学生に大きな影響を与えた。彫刻の解らない初心者に親切に教えてくれた。実践を通して見せてくれる制作にかける情熱や意気込みは大きな刺激になった。おかげで彫刻に対する興味が膨らみその可能性も知った。この時の先輩達には感謝だ。

4年生になれば卒業制作の専攻を決めることになる。私は迷わず彫刻を選んだ。未知なるものへの強い好奇心と先生の職人魂への憧れがあった。

坂東教室は、いわば職人の弟子入りみたいな感じである。ほとんど徒弟制度的様相だった。後で理解したのだが技術を見につけるためにはあえてそれが必要であったのだろう。彫刻を選択した岡田君と私

は毎日坂東先生の教室で共に過すことになる。先生よりも早く来て粘土の水やり、道具の整備、モデルとして飼っているチャボの世話等をする。特に冬場は裸のモデルのため早朝から石炭ストーブを焚いて部屋を暖めておくのが日課であった。制作が始まれば先生も同時に制作をする。お互い無口になり誰も何も言わない静寂の中でただ粘土をつける音だけがする。モデルが帰ってからスケッチブックを見直し粘土をつけ、削る。そのくり返しが続く。ところが初心者は必死で粘土をつけるものだからなぜか必ず粘土をつけ過ぎる。その度、先生はそれを見て「出とる所ばかり作とるへっこんどる所を見てみい。立っとらんぞ離れて全体を見ろ。」と口ぐせの声が飛ぶ。私はせっかくきれいに出来ているのにといいながらやり直す。その毎日が修行であった。

技術は見て盗め、と職人の世界では言われるように学生は先生の制作技術を常に見て学んでいた。しまいには言葉使いまで似ていた。彫刻は大作ともなれば一人ではとてもできない作業が多い。そこで簡単なことは説明を受けながら手伝わせてもらうことができそれも勉強になった。また先生の仕事の一端に触れる許可が出ることは半人前に認められたことである。それは非常な喜びでもあった。丁度在学中に先生に井戸寺の文化財である本尊の修理の依頼があった。私の担当は頭の螺髪（渦巻形の粒状のもの）その何百もの数の粒を一つ一つ毎日作った。気の遠くなるような作業であったが形を学ぶことで大いに参考になった。仕上げは漆を塗るものだから免疫のある先生以外の者は皆かぶれた。何もかもまさ



「風景の構築」 1997年
ステンレス・スチール



に職人の世界を毎日体験しているようであった。総て辛抱の連続だがそれでも嬉しいことはたまにある。手伝った後は必ず食事に連れて行ってくれた。学生にとって食べることが最も楽しみだと先生はよく知っていた。

先生の指導方針は、それぞれの学生がいろいろなものを見て、そこで感じるものを大切にし、自分の制作理念や作風は自らが見つけることであると言わ

れていた。決して坂東流を押しつけることはしない人であった。そのことから田舎の美術の学生に本物の作品や現役の一流作家に触れる機会を持つことが大きな刺激になると先生は考えられていた。そこで先生は毎年学生を連れて東京へ行くことを慣例としていた。先生の知人である第一線で活躍中の作家のアトリエを訪問できた。そして著名な作家に直に話を聞き制作中の作品を見せてもらったことは貴重な経験であった。

その中の一人で日本の抽象彫刻の先駆者と言われている向井良吉氏のアトリエを訪ねお会いできたことが私のその後の彫刻人生に大きな影響を受けている。その時珍しいアルミ鑄造の仕事を拝見した。その新鮮な驚きと感動は今だに忘れることがない。そのことが縁でその後ずっと40年間向井先生と同じ美術団体に出品を続けている。

卒業後も私は先生の主宰する彫刻集団に所属して制作活動を行っている。しかし先生は今から3年前に90歳で亡くなられた。顧みれば出会いから始まり長い間、人生のすべてでお世話になった。そのおかげで目標を持った充実した人生を送ることができている。コツコツと地道にやっている制作活動だが先生に続けることに意味があるとよく言われたことを思い出す。また、創造の可能性は果てしない、答えない世界だ、それゆえ、常に新しいことに挑戦する気持ちを失うな、とも言われた。これからも、この教えを大切に守っていきたいと思っている。

松永 勉 略歴

現在 ● 県美術家協会彫刻部会長
● 行動美術協会会員

1971年教育学部中学課程美術科卒。専門は金属彫刻、在学中より行動展に出品、1990年に安田火災美術財団奨励賞、現在行動美術協会会員。1989年に国際彫刻展の第6回ヘンリー・ムーア大賞展で彫刻の森美術館賞、1992年 OUR 徳島彫刻大賞展で大賞、04年桜の森彫刻コンクールで優秀賞など受賞多数。個展開催5回。主な作品に、埼玉県伊奈記念公園の「風の舞奏」福島県大熊町文化センターの「蒼穹の舞」在モロッコ日本大使館の「光と風の協奏」など全国各地に多数の作品を設置。



松永さんは、高等学校教員として勤務しながら作品制作に精力的に取り組み、発表を続けてきた。今春、教職を定年退職し、40年に及ぶ制作活動の集大成として5月12日～17日、徳島県立近代美術館ギャラリーにて「松永勉展 ～風景のリズム～」(徳島彫刻集団主催)を開催。自然や命をテーマにした作品15点が展示された。組み合わせられたフォルムの生み出す心地よいリズムが、みずみずしいエネルギーを感じさせてくれた。

中国へ渡った教育学部・総合科学部生

—「あの留学から十余年離れて」

総合科学部教授 荻 森 健 介



先号で卒業生の城戸久枝さんが著書『あの戦争から遠く離れて』が昨年大宅壮一ノンフィクション文学賞を受賞された経緯について書いておられましたので、お読みになった方もおられることと思います。卒業生がこうした大きな賞を受賞したことは喜ばしい限りです。ただ、私にとってもっとうれしかったのは彼女が中国政府留学生の選考に受かった時でした。この本は出版された直後ご本人から手元に送られてきました。一読してその内容に圧倒され、大宅賞とは行かないまでも何らかの受賞を予感しておりました。しかし、彼女が中国政府留学生の試験した時は口ではいけるかもと言っておりましたが、内心は不安そのもの、祈る気持ちでした。というのもそれまで中国政府奨学生は申請しても徳島大学からはなかなか採用されません。徳島大学で正規の中国語教育が始まったのは1993年、他大学からは大きく遅れをとっており、後進の地方大学では政府の奨学金の獲得は難しいのか。悔しい、そして情けない思いを重ねてきました。

城戸さんの本はドラマ化され、今年の4月から5月にかけてNHKの土曜の夜「遙かなる絆」として放映されました。その予告編で流されたのは加藤健一さん演ずる城戸幹さんが娘の留学を反対するシーンです。実際、当時城戸久枝さんはお父さんを説得するためにもなんとしても試験に受かりたいと必死でしたし、私もどうしたらその夢が実現するのか、できる限りのことはしました。後は本当に祈るしかないという状況で結果を待っていたのです。それだけに合格の知らせを聞いた時の喜びはひとしおでした。

ドラマ「遙かなる絆」は、城戸幹さんの帰国に向けての苦労、家族の絆、そして留学を通じての久枝さんの成長を描いておりました。確かにフィクションの部分もありますが、彼女が留学を通じて大きく成長したことは、教師の目から見ても紛れもない事実です。最近、総合科学部の耐震改修の準備のため研究室を整理していたら、中国から送られてきた彼女の手紙や年賀状が出てきました。ドラマを見、そして手紙を読み、「あの留学から十余年離れて」、留学経験がいかに若者を成長させたのかという思いを新たにしています。

自分たちと異なった考え方を持つ人々の世界で生活し、学ぶ事は自分自身、そして自分自身が生きて

きた国の社会や文化を見直すきっかけとなります。私は1986年に徳島大学に赴任し、中国史のゼミや課外活動で中国語を教え始めました。それは、若い人たちにいろんな世界を知る手がかりとして先ず言葉を学んでもらおうと思ったからです。それに続き、中国へ留学生を送るということを考えました。1987年教育学部の最後の学年となった河野明美さんと林直美さんくどちらも旧姓が私の呼びかけに応じ、上海の復旦大学の夏季語学研修に参加したのがおそらく中国留学の最初です。その頃の中国はまだ食料も配給制、留学生食堂のご飯には虫が混じる、ともかく大変な経験をして来られたようです。でもそうした彼女たちの留学が城戸さん達の後輩の礎となったと言えるでしょう。

河野さん、林さんを皮切りに、1990年代に入り多くの総合科学部の学生が復旦大学への夏季や春季の短期語学研修に参加しています。そして城戸さんが中国政府留学生に合格して以降、堰を切ったように毎年、多い年には複数名の学生支援機構（日本側）あるいは中国政府の奨学金を受けて中国に留学できるようになりました。最初の留学生を中国に送り出してから二十余年、城戸さんが始めて奨学生の試験に合格してから十余年、中国に留学した総科の卒業生達はその経験を活かし貿易、マスコミ、情報産業等様々な分野で活躍しています。後輩達も城戸さんや留学にチャレンジした先輩に続いてくれることを祈ってやみません。

徳島大学創立60周年

特別記念講演とトーク

- 講演：城戸久枝氏
(ノンフィクションライター・総合科学部卒業生)
- トーク：NHK土曜ドラマ『遙かなる絆』のモデル
城戸幹氏と久枝氏
- 日 時：12月5日（土）
午後2時より
- 会 場：あわぎんホール（郷土文化会館）
4階大会議室

留学中の城戸久枝さん。
吉林にて



スタートライン

S T A R T L I N E

「心」の専門家としてのスタートラインに立って

米花 佳恵



私は「将来、何か人のお役に立つ仕事がしたい」という気持ちが強かったため、大学・大学院で心理学を学び、臨床心理士として社会貢献をする道を志しました。

昨年度に大学院を修了した後、現在は徳島市のすだち学級という施設で指導員として働いています。すだち学級とは、不登校の小学生・中学生が通ってくる通所施設で、子どもたちが学校復帰や社会的自立を目指すための支援を行う場所です。私はそこで、臨床心理学の専門性を生かしながら、子どもたち一人一人が心に抱えた課題に寄り添い、彼らが成長していくための支援を行っています。

すだち学級と私の出会いは大学生3年生の頃でした。ゼミの先生からすだち学級をボランティア先として紹介していただいたことをきっかけに、学生ボランティアとして活動に参加させてもらうことになりました。その当時は、心理学を学び始めたばかりの頃で、専門家として子どもたちとどのようにかわれば良いかが分からなかったため、自分流で子どもたちと接していました。そして、ボランティアを始めて数ヶ月経った頃、子どもたちの“良きお姉ちゃん”であろうと奮闘していた私の姿を見て下さっていたのか、指導員をされていたある先生から、「米

花さんはボランティアの中で、子どもとのかかわり方が一番上手。」とお褒めの言葉をいただけたことがありました。自分なりに一生懸命にボランティア活動へ参加していたこともあり、その先生が私の対応を褒めて下さったことは私の自信となりました。そして同時に、「私が選んだ道は間違っていなかった。将来は臨床心理士として社会貢献したい!」とより強く感じるようにもなりました。

すだち学級では学生ボランティアとして3年間お世話になり、たくさん子どもたちと出逢いました。その経験は、専門家としての自分のふるまい方や考え方を築くきっかけとなり、仕事をしていく上での私の財産となっていると感じます。

学生ボランティアから職員になってからは、学生ボランティアの頃とは違い、子どもたちと楽しくかわるだけではなく、子どもたちにとって耳を塞ぎたくなるようなことも言わなければならなくなりました。学生時代は、相手の話を受容的・共感的に聴くといった、臨床心理学の専門家としての基本的なスタンスを学んでいたこともあり、子どもたちを指導することには抵抗を感じます。しかし、職場では子どもたちの心に寄り添うような対応だけではなく、指導的な対応も必要であるため、現在は教育現場の指導員としての引き出しも増やそうと努力しているところです。

社会に出たばかりでまだまだ未熟な専門家ではありますが、スポンジのように色々なことを吸収して精進し、臨床心理士として少しでも社会貢献ができるよう努力していきたいです。まずは、今秋にある臨床心理士資格試験合格を目指します!

今後、徳島大学渭水会の皆さまと一緒に仕事をさせていただく機会もあるかと思います。その際はどうぞご指導ご鞭撻を宜しく願います。

(平成21年大学院人間・自然環境研究科臨床心理学専攻修了)



社会人になるということ

下村 遥香

私は地方銀行で勤務をしています。銀行というと堅いイメージがありますが、入行してからは確かに細かい業務が多く、お客様の大切なお金を扱うだけあって、堅苦しくは感じました。しかし、先輩方はプロの銀行員としての自信や誇りを持っており、とても信頼できる活気ある印象を受けました。

私は入行してから、配属された営業店で後方事務を3ヶ月していました。主に、窓口では時間のかかる処理、電話対応、通帳などの紛失登録、住所や印鑑の変更登録、依頼を受けた小切手の発行登録など様々な事務を行っていました。特に月末、税金の納付期限の日、年金給付の日などは繁忙日と呼ばれ、多くのお客様が来店されます。店内は大変混雑し、お客様の待ち時間を少なくするために、私たちには処理をするスピードが求められます。早く正確に処理をしなければならないのですが、私は業務に慣れておらず要領も分からないので、お客様を長時間待たせてしまうことも多々ありました。

そして、現在は窓口業務をしています。まだ窓口に出て1ヶ月も経っていないのですが、後方事務とは違い、お客様との距離が近いことや多額の現金を扱うこともあり、緊張しています。知識不足のため、対応や処理の仕方が分からずお客様に迷惑をかけてしまい、毎日のように先輩方にフォローしていただいています。しかし、次回も同じ失敗をしてお客様や先輩方に迷惑をかけないよう、必ずメモを取り復習することで少しでも早く一人前になり、お客様に分かりやすい説明で対応できる自信と知識を付けることを目標に、日々努力しています。

社会人になってまだ5ヶ月しか経っていませんが、社会人になって働くというということは、その道のプロになるということだと思います。新入行員であろうと、お客様から見ると銀行の一従業員に変わりはないのです。今は日々の業務を振り返り、分

からないことは積極的に先輩方に質問をし、自分で規程を見て勉強することや、新聞で社会の現状を知るなど、今の自分ができることを精一杯することで、金融のプロになる基礎を固めています。また、常に周りの人のことも気遣うことも大切だといえます。後方事務の時には分からなかった窓口業務の大変さや、逆に後方事務の大変さというものの係が変わってから気づくことはたくさんありました。

銀行の第一印象はその日の何時までに処理を終えなければならないという厳しいルールがあり、常に時間との闘いで、神経を使う業務が多いことでした。しかし、ATMのご案内など、銀行側にとっては当たり前のことをしたつもりでも、お客様から深い感謝の言葉を頂き明るい顔でお帰りになったときは、私もとても嬉しく思い、仕事にやりがいを感じます。

私は多くの人の生活をサポートすることで、喜んでいただける仕事をしたいと思っていました。また、大学時代には地域活性のイベントへの参加、中山間地域の機能を維持する解決策を考える実習では、実際に現地の住民の方に直接お話を聞くなどするうちに、もっと社会や地域の現状を肌で感じることで知りたいと思うようになりました。

中でも銀行は人の生活に密着しており、直接お客様と接することのできる業種の一つといえます。近年は事業の幅も拡大していることから、お客様の人生や地域を何らかの形でサポートできるのではないかと思います。銀行に就職することを決めました。

社会人になってまだ間もなく、日常の業務をこなすことで精一杯ですが、お客様が描く未来像を実現するサポートが早くできるように、目の前の課題に真剣に取り組むことで、信頼される行員になれるよう頑張りたいと思います。

(平成21年人間社会学科地域システムコース卒)

一歩を踏み出す勇気

坂梨 容子

私は前期試験に失敗し、後期試験でなんとなく入学し、何の目標もなく、受験の失敗を引きずっていました。けれど、総合科学部では1年間あらゆる科目を履修することができたため、焦らずじっくり、様々な面から将来の目標を決めることができたため、高校時代に将来の目標が明確ではなく、やるべきことがはっきりとしていなかった方には理想的な学部ではないか、と思います。2年生の終わりを迎えた頃から、授業がないときなど、ほぼ毎日、仲間と一緒に勉強するようになっていました。そのうち、漠然としていた将来の目標が明確になり、あらゆることが前向きに考えられるようになったため、有意義な生活が送れました。振り返ってみると、一緒に勉強できる仲間ができるまでは、1つ課題が終われば、また次の課題…と、いつも何かに追われているような、精神的に余裕のない時間を過ごしてしまったように思います。

もちろん、時は止まらず流れているわけですから、次々やらなければならないことがあるのは当然

ですが、先の見通しを持てなければ、追われているとを感じるが故にあらゆることが楽しめないように思います。大学生活を送る上でも、生きていく上でも、『楽しむ』ということは、本当に大切なことだと思います。刹那的な楽しみではなく、また振り返って「楽しかったな」というだけではなく、高度な感性と豊かな想像力で人生を楽しむ姿勢が、人生の醍醐味だと思うのです。人生楽しいことばかりではありませんが、それも楽しみたいと思えるようになりました。

自分の周りで起こった様々な出来事のうち、経験したことのないようなこと、人との出会い、記憶から消し去りたくなるような失敗など、それらは必ず自分に影響を与えるはずです。そして、自分の思いも色々な色を帯びてくるはずです。時には、それが白から黒へ変わることもあるでしょう。また、昔自分が下した決断を覆さなければならない時、仮にそれが回り道になっても、夢を追い求める原動力があるならば勇気をもって決断できると私は信じていま

す。大学生活での決断は「未来を決断するため」の決断だと思います。夢を追う気持ちがあるならば、決して可能性を狭めることなく、精一杯自分らしく生きるために、夢を探して追い求めることが大切だと思います。その延長線上に答えが、さも当然と言わんばかりに、転がっているような気がします。

私は、九州大学歯学部3年次に編入した今、総合科学部で勉強したことや確立された生活スタイルなどが私の原点となっているように思います。しっか

りとした自分をもっていれば、様々なことに積極的に取り組めるはずです。後輩たちには、転ぶことを恐れてハードルを下げるのではなく、自分の可能性を信じて失敗を恐れず色々な事に挑戦して欲しいです。そして、それぞれの持ち味が出せるような夢や目標をなるべく早く見つけ、それに向かって力強く羽ばたいて行って欲しいと思います。

(平成21年自然システム学科生命・環境コース卒)

いいでさん
飯豊山にヒメサユリを尋ねて

中島 護

歩き遍路をしていた8年前、山形の青年と一緒にになった。私が登山を始めたことを話すと、「私の古里には、飯豊山という素晴らしい山があるので、是非登りにいらっしゃい」と、誘ってくれた。山形県には、鳥海山や月山という有名な山があるのに、初めて聞く山なので帰って調べてみると、標高は2105m、雪溪の多い奥深い山で、寝袋や米など、重い荷物を担いで登山小屋で泊る必要があることが分かった。高齢者には、とても無理なため諦めていたのだが、今回後輩のベッド付きの車に便乗させてもらって、2人で登ることができた。話の通り、魅力あふれる花の山であったので紹介する。

7月29日 晴 午前4時30分、山形県側の大日杉登山口出発。いきなり、ザンゲ坂の急登。70m程の長い鎖を手繰って尾根に出ると、ノギランが沢山咲いていた。アカモノが真赤に熟していたので、ほうばりながら歩く。白色の美味しそうなキノコの塊や、食べ頃のアカヤマドリなどが生えていて、東北地方のキノコの多さに目を見張った。長之助清水から、杉の巨木のある御田を過ぎると、1539mの地藏岳頂上に着く。白い花のセンジュガンピが多い。遭難事故があったのか、朝からヘリコプターが低空で飛んでいた。ここからはヒメサユリが多く咲くので、ヒメサユリロードと名付けられている。7月上旬の花だが、まだ有かなと探しながら歩く。残念ながら皆種子になっていた。ミヤママコナや東北地方の深山だけにある、ミヤマクルマバナが美しい。アップダウンの多い細い登山道を歩いていると、ダケカンバの林の中に休憩に適した広場があった。そこは赤黄紫緑白と、色とりどりの花が咲き、涼風が心地良く吹く極楽のような所であった。前方に飯豊山が見えてきた。祠と2本の剣が祀られている御坪を過ぎると、右手に雪溪コースの近道があったが、遠回りして安全な道を通る。それでも大きな雪溪に突き当たって道が寸断されていたので、草の中を降り、雪溪の末端に近い狭い所を渡る。すぐ下は溶けて滝になっており、スリップすると岩場に落ちるので命がけだ。どうにか渡り終えたが道が無く掴む物もない急斜面。生えたばかりの草の上は滑りやすいので、四つん這いになり必死になって登った。遠くの尾根に一人の登山者が立ち止まって、心配そうに我々の方を見ているのが目に入った。やっと安全な所まで登れた。ところが、斜面の草原の中に、目も覚めるような美しい



ヒメサユリ

イイデリンドウ



ピンク色のヒメサユリが、甘い香りを出しながら群生しているではないか。道に迷って死物狂いで登ったのだが、こんな所で思いもよらぬご褒美にありつけた。尾根の登山道に出ると、濃い紫色のタカネマツムシソウが風に揺られており、雪溪の衣を着た雄大な飯豊連峰が広がって、最高峰の大日岳が雲上に聳えていた。切合小屋には多くの登山客がいた。比較的に楽な、福島県側の飯豊鉱泉御沢コースから登ってきたようだった。小屋の前で屈強な山男と話をしたとき、「80才とは凄いですね。水晶岳やこの飯豊山に登れたら、日本の百名山は何処でも登れるから頑張りなよ」と、力付けてくれた。小屋に余分な荷物を預け、軽装で飯豊本山に向かう。急登して2つの雪溪を渡り、草履塚のピークに登って姥権現のコルに降りる。飯豊山には、五穀豊穰の神を祀る飯豊神社があり、昔は女人禁制の山であったので、女性は登ることができなかった。ある時、山から帰らない息子を探しに来た母親が、この場所で石にされてしまったという伝説があり、赤い涎掛けをした姥の石像が建立されていた。ここからは御祓所のやせ尾根の岩場で、右側は断崖絶壁。日頃の行いの悪い者は、ここで神隠しに会うので、落ちないように米や賽銭を投げながら通ったそうで、今は鎖が掛けられている。岩礫地をジグザグに登ると一の王子。その奥に本山小屋と飯豊神社があった。足元に咲く固有種のイイデリンドウを愛でながら草原を歩くと、ひと登りで山の神が住むという飯豊本山に着く。山頂からは360度の大展望。東北随一の稜線に大日岳・御西岳・地藏岳・三国岳と、雄大な飯豊連峰が遠くまで伸びていた。切合小屋に戻る途中、幾つものパーティに会った。本日の行動時間は9時間40分であった。

次の日の山小屋からの眺めは最高。大雲海の中に遠くの山が浮かび、ご来光の輝きが雲の色を変えながら静かに動いて行く。またひとつ、忘れ得ぬ光景の宝物ができた。帰路、大日杉コースの標柱があったので左折。すぐに大きな雪溪に出た。昨日道がわからなくて、雪溪の下の方を通ったが、道は上の方にあったのだ。赤テープなどの目印も渡れそうな場所も無いので、斜面を横切ることにした。すぐ滑って倒れそうになった。ここで尻餅をつくとも滑落して命が無いので、ストックにしがみついて体勢を立て直す。危険なため相棒のアイゼンを片方だけ借りて装備し、ストックで体を支えながらゆっくり渡った。草むらの中の踏み跡を辿ると、登山道に出て御坪へ着いた。地藏岳に登っているとき、珍しく人声がして、男性3人連れに会った。酒田市の人で花の写真を撮りに来たそうだった。ヒメサユリの咲いている場所を教えてあげて別れた。ザンゲ坂も無事に降りて、昼前に大日杉登山口に帰れた。飯豊山は夏でも大きな雪溪が残っているため、春から秋までの花を同時に楽しむことができた。今回初対面の花が5種類。なかでも憧れの東北地方の名花ヒメサユリに、思わぬ場所で巡り会うことのできた嬉しい山旅であった。

(昭和25年徳島師範学校卒)

渭水会助成事業：高等学校部会講演会並びに総会

高等学校部会会長 毛利 久康

渭水会が支部という制度を廃止しましたので、支部として活動してきた高等学校支部は、今後のあり方が問われることとなりました。しかし、この組織の目的である、会員相互の友誼、母校への協力、県内全高校及び特別支援学校の伸展という3本柱の必要性は変わりなく、組織自体は継続することとなりました。

したがって、高校・特別支援学校部会として組織は改名し、平成9年から一般支部に分かれておられた校長経験の先輩方も顧問として引き続きお願いし、活動することとしました。

また、今まで役員の監事には、副校長・教頭の立場で2名または3名に監事を依頼していましたが、副校長・教頭時代からこの組織の活動に責任ある立場で関わっていただき、次の時代の組織の運営を引き継いでいただきたいという気持ちがあり、副校長・教頭先生全員に監事をお願いすることにいたしました。

そして、役員と事務局の負担軽減を図るため、役員会、理事会・総会の開催につきましては、会則に理事会は必要に応じて開催となっていますし、総会は年1回必ず開くことになっていますので、総会のみ講演会など魅力を持たせ毎年開催することとしました。また、6月にしておりました本部役員会につきましては、その年度の基本方針等について文書、ファクス等で役員の方に相談し、意見を集約するということで簡素化させていただきました。

本組織の事業にありました会員名簿の作成については、個人情報保護の立場から、冊子にしての配布は止めております。しかし、事務局として総会・講演会等の案内を行うため、会員名簿を保持し、随時更新しながら組織の運営に限って使わせていただくこととしました。ただし、卒業年度や教科科目単位の間会合開催の時は、活用下さい。

そして、この組織の最後の目的であります県内全高校及び特別支援学校の伸展のために何ができるかですが、開かれた組織として、周りの社会への貢献が求められています。本年度の講演会は、会員のみならず、教育に携わる者全員の直面している問題でもある発達障害について講演を計画しました。複数の理事の方から「会員でなくても聞きたい人は参加していいですか」という問い合わせをいただきました。これからの開かれた組織としての一歩になったのではないかと思います。

最後に、この組織の2番目の目的

であります母校への協力ですが、母校創立60周年記念事業への協力も宜しくお願いいたします。

「教育講演会」8月22日(土) 15時より

主 催：渭水会高校・特別支援学校部会

会 場：ホテルグランドパレス徳島

題 目：「対人関係や学習上の問題を抱える生徒における発達障害の可能性とその対応」

講 師：総合科学部教授 山本 真由美氏

参加者：来賓、会員等40名

「総会」 8月22日(土) 16時より

平成21年度役員

顧 問：春藤 孝雄 平尾 隆信 森 勝
岩田 忠男 出葉 秀樹 竹田 忠寛
住友 一郎 鎌田 真城 松田 弘
他70名

会 長：毛利 久康

副会長：加藤 賢治 乾 初枝 富田 充宏
富樫 敏彦 吉田 千壽 美馬 恒子

監 事：露口 幾也 下浦 忠雄 近藤 春江
吉野 勝裕 東條 浩士 後藤 貴雄
上田 光利 高砂 敏文 田村 公子
井上 薫 林 博子 山村 晃
松山 隆博 村岡 直美 山村 啓治
竹内 圭三 上野 清文

事務局：城東高等学校

神原 弘 藤本 悦子 白草 淳
宮田 明美 松岡 洋介 高橋 弘恵
山下 京子 野口 歳樹

昭和49年中学校課程物理学教室卒
城東高等学校 TEL 088-653-9111



近畿びざん会開催

昨年開かれた徳島大学同窓会連合会の「関東びざん会」に引き続き、本年は平成21年7月18日に「近畿びざん会」が大阪大学中之島センターで12支部の役員と徳島大学から青野学長を始め各理事さんを含め57名が参加して開かれました。

学長の挨拶に続いて徳島大学プロモーションビデオ2008版DVDが放映され、自分が学んだ母校を思い出しながら大学当局の努力により近代化された施設の素晴らしさに感動していました。

次に各支部の代表の挨拶のあと、懇親会に移り、近況報告では総合科学部は平成21年度より2学科を3学科体制に改組し、総合科学教育部（博士前期課

程及び博士後期課程）を新設し再出発したことをお知らせし、校舎も改築中であることも話し合いました。

久しぶりの出会いで和やかで楽しい一時を過ごさせていただきました。

●渭水会の参加者

吉本（昭和18卒）	片山（昭和30卒）
大桑（昭和40卒）	北村（昭和42卒）
豊崎（昭和42卒）	細川（昭和42卒）
赤沢（昭和44卒）	井内（昭和28卒）



「びざん会」に出席した渭水会員

「渭水会助成事業に関する要項」が総会において下記の様に改正されました。応募希望者は申請書と報告書を渭水会事務室に請求するか、別添の申請書と報告書をコピーして、奮ってご応募ください。

渭水会助成事業に関する要項

(趣 旨)

第1条 この要項は渭水会における助成事業について必要な事項を定めるものとする。

(目 的)

第2条 この事業の目的は渭水会正会員を主とする研究会・講習会・その他有意義な催し物について経費の一部を補助することとする。

(事業の人数)

第3条 この事業の参加人数は10名以上であり、参加人数に対する助成限度は50名を上限とする。

(助成金額)

第4条 1事業につき基礎額を20,000円とし、参加者1人につき1,000円を加算する。ただし、人数割は50,000円を限度とする。

(配当順序と配当回数)

第5条 事業の申込は年度ごとに先着順で受理し、年度内の同一事業の申請回数は1回までとする。

(申請と承認)

第6条 事業は催し物が開催される3週間前迄に申請し、会長の承認を受けなければならない。

(事業報告書)

第7条 事業申請者は、事業終了後に簡単な報告書と会報用の800字程度の原稿を提出しなければならない。

附則 この要項は、平成20年5月31日から施行する。

附則 この要項は、平成21年6月6日から施行する。

平成 年 月 日

渭水会事業助成金申請書

徳島大学渭水会 殿

申 請 者

卒業年

氏 名

印

催し物の名称	
開催年月日	平成 年 月 日 () ~ 平成 年 月 日 ()
会 場	
参加予定人数	人
事業の目的 及 び 内 容	
申請金額	20,000円+1,000円×参加人数 (人) = 円 (参加人数の限度額は50,000円とする)
事務取扱者	〒 (-) 住所 _____ 氏名 _____ 電話 _____ FAX _____ e-mail _____

(備考)

- この事業は渭水会会員を主とする研究会・講習会・その他有意義な事業について経費の一部を補助するものとする。
- 参加人数が10名以上であること。
- 1事業につき基礎額20,000円とし、参加者1人につき1,000円を加算する。但し、人数割は50,000円を限度とする。

平成 年 月 日

渭水会助成事業報告書

催し物の名称	
申請者	
開催年月日	平成 年 月 日 () ～平成 年 月 日 ()
事業内容	
備考	

徳大ニュース

徳島大学に関するニュースをお届けします。詳細は徳大広報並びに本学ホームページを御覧ください。また、会員の皆様の御意見や御要望をお寄せください。

徳島大学総務部秘書課 (Tel : 088-656-7021 Fax : 088-656-7012)
(E-mail : hibunsyok@jim.tokushima-u.ac.jp URL : http : //www.tokushima-u.ac.jp)

I 学内の状況

1 関東地区徳島大学同窓会連合会交流会（関東びざん会）を開催

関東地区徳島大学同窓会連合会交流会（関東びざん会）が去る平成20年10月4日、港区南青山のNHK青山荘にて初めて開催され、青野敏博学長、黒田泰弘副学長をはじめ関東地区在住の卒業生約60名が出席しました。

同窓会連合会交流会は、各同窓会の相互の親睦を図り、各同窓会及び徳島大学の発展に寄与することを目的として、平成18年度より開催していますが、徳島県以外でも開催したい旨の声があり、今回初めて関東地区で開催することとなったものです。

交流会では、青野学長からの挨拶の後、各同窓会の紹介、産学連携コーディネータからの活動報告、大学の近況報告がなされ、交流会は盛況のうちに閉会し、出席者からは次回も参加したいとの感想が聞かれました。

2 「徳島大学国際センター」発足記念式典を実施

平成14年4月に文部科学省の省令施設として設置された「留学生センター」がこれまでに実施してきた日本語教育を中心とした留学生教育、生活相談と生活指導、日本人学生の海外留学支援の業務に、「交流部門」と「文書・広報室」を加え、新しく「国際センター」を設置し、平成20年12月4日、徳島県、(財)徳島県国際交流協会を始めとした国際交流団体、大学関係者、本学との関連企業などが出席するなか、「国際センター」発足記念式典を実施しました。

3 総合科学部を改組・大学院総合科学教育部を設置

平成21年4月1日、総合科学部を改組し、諸科学の総合・融合を一層展開しやすくすることを旨として、「人間文化学科」、「社会創生学科」、「総合理数学科」の3学科7コースに再構築しました。

また、大学院人間・自然環境研究科を発展的に解消し、学生の教育組織としての大学院総合科学教育部（博士前期・後期課程）と、教員の研究組織としての大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部を設置して、より高い教育研究活動の展開を図り、まちづくり・地域づくりのための新しい学問領域を創生する地域科学（総合科学）を推進していきます。

4 「徳島大学ゆめ奨学金」を創設

平成21年度から、大学院博士後期課程に在学する

学生を対象に、社会の様々な分野において活躍できる優秀な人材の育成と大学院教育の充実を図るために、徳島大学独自の返還義務を課さない給付型の「徳島大学ゆめ奨学金」を創設しました。

本奨学金の財源は、寄附金等の予算を充てることとしています。

平成21年度においては、大学院博士後期課程（医科学教育部及び口腔科学教育部の博士課程を含む。）に入学する学生で、国費外国人留学生等を除き、授業料の免除を受けていない学生が主な対象となります。

前期及び後期の学期ごとに選考の上、対象者数の約7割を給付者として、前期及び後期の授業料の額の半額に相当する額を給付することとしています。

II 学生関係

1 アカデミックガウンを着用して初の卒業式・修了式を挙

平成21年3月23日、平成20年度徳島大学卒業式・修了式をアスティとくしまで挙行了しました。

今年度から徳島大学オリジナルのアカデミックガウンを製作し、学長、副学長等の登壇者と各学部、各大学院教育部の学生総代及び外国人留学生が着用し、式に臨みました。アカデミックガウンは徳島の名産である「藍」を基調色として学章を両胸に刺繍したオリジナルデザインで、式の前後にはガウンを着用した学生総代、外国人留学生を中心とした記念撮影が後を絶たませんでした。

式の最後は、リーダー・クライスによる徳島出身の歌手アンジェラ・アキさんの"HOME"の合唱で1,952名が徳島大学を巣立ちました。

2 入学式

平成21年4月6日、アスティとくしまで平成21年度入学式が挙行され、青野学長が合計2,084名（学部1年次1,334名、学部3年次61名、大学院修士（博士前期）課程559名、大学院博士（博士後期）課程110名、助産学専攻科20名）の入学を許可しました。

入学生を代表し、医学部医学科の鈴木耕一郎さんの総代宣誓の後、学長から「“I have never met a man so ignorant that I couldn't learn something from him.” ～どんな人からも付き合うことによって学ぶこと、吸収することができる。」というガリレオ・ガリレイの言葉が贈られ、「新入生諸君の若さと洋々たる未来を信じ、大いに成長されることを期待しています。」との式辞がありました。

総科ニュース

※この総科ニュースについての詳細は徳島大学総合科学部総務係へお尋ねください。

徳島大学総合科学部総務係 TEL：088－656－7103 FAX：088－656－7298
E-mail：sksoumks@jim.tokushima-u.ac.jp

■総合科学部を改組・大学院総合科学教育部を設置

平成21年4月1日、総合科学部を従前の2学科から、以下の3学科7コースに改組しました。これにより、諸科学の総合・融合を一層展開しやすくとともに、総合・学際的及び基盤的教育研究の二つの課題を学部教育段階から実施することが可能となりました。

「人間文化学科」…国際文化コース、心理・健康コース

「社会創生学科」…公共政策コース、地域創生コース、環境共生コース

「総合理数学科」…数理科学コース、物質総合コース

また、大学院人間・自然環境研究科を発展的に解消し、学生の教育組織としての大学院総合科学教育部（博士前期・後期課程）と、教員の研究組織としての大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部を設置しました。大学院総合科学教育部では、博士後期課程に地域科学専攻を、博士前期課程には、地域科学専攻（地域創生分野・環境共生分野・基盤科学分野）と臨床心理学専攻の2専攻を備えています。これにより高い教育研究活動の展開を図り、まちづくり・地域づくりのための新しい学問領域を創生する地域科学（総合科学）を推進していきます。

■総合科学部1号館を改修

総合科学部1号館は、築40年余を経過し、耐震構造上の欠点を有するため、学生、教職員の安全性確保の観点と教育研究環境の機能改善を図るため、平成21年9月から改修工事に着手します。竣工は平成22年3月を予定しています。

改修後には、教育共同スペースを充実し、そこにコースや学科の図書室を設置するなど教育支援機能を高め、コースや専門の壁を越えた総合科学の本格的な展開が可能となるほか、ICT対応（情報通信技術対応）の自習スペースを確保することにより、学生の自学・自習のレベルを高めることができます。

また、研究面においても、共同研究スペースの設置により組織的な共同研究の企画が、より一層拡大・推進され、研究者のモチベーションの向上や外部資金の獲得が期待されます。

さらには、地域住民等との交流の場を設置することにより、総合科学部及び大学院の教育・研究の現在をタイムリーに知っていただくことができ、地域連携活動に一層活発に取り組むことで、地域社会の「知の拠点」となることを目指しています。

編集後記

渭水会会報第38号をお届けします。ご寄稿された皆様には厚く御礼申し上げます。母校の総合科学部では任期満了により和田眞前学部長から石川栄作新学部長へと学部長が変わり、その挨拶をご寄稿いただきました。また今年度は総合科学部の改編と大学院・総合科学教育部の新設があり、母校の教育研究体制が大きく変わりました。この改編と新設については石川学部長の挨拶の中で、そして「総合科学部では今（20）」のコラムで将来構想委員長であった中嶋信先生にご説明いただきました。また新しい教育研究体制の組織と内容を紹介するために、IAS NEWS2009から「総合科学部・大学院の新たな旅立ち」を転載し特集を組みました。これらの記事か

ら新生の総合科学部と大学院・総合科学教育部の様子が分かりいただけると思います。また大改修の終わった図書館については Topics を組み、新しくなった図書館の状況をお知らせしました。そして昨年、大宅壮一ノンフィクション賞を受賞された城戸久枝さんに関連して葭森健介先生から「中国へ渡った教育学部・総合科学部生—『あの留学から十余年離れて』」と題して、中国留学生の状況を綴っていただきました。その当時の教員と学生の状況を垣間見ることができると思います。一方、この9月から総合科学部1号館の南棟と中棟の大改修が始まりました。来年の3月には新装なった校舎が見れることとなりました。広報係では会員の皆様からの色々な内容のご寄稿をお待ちしています。